

「全国経営学部長会議における チューニングへの関心」

2017年9月25日

中国教育部国家教育发展研究中心

チューニング調査団との研究交流

於 国立教育政策研究所

文京学院大学経営学部

(第42回全国経営学部長会議幹事校代表)

絹川直良

説明の構成

1. 「全国経営学部長会議」とは
2. 経営学分野におけるチューニング的な活動の必要性
3. チューニングに関連するこれまでの活動と成果・課題
4. チューニングに関連する今後の取組

1. 「全国経営学部長会議」とは

「全国経営学部長会議」

- 1976.12に、大学経営学部の共通の諸問題を討議し、検討することを目的に発足。
- 第一回会合開催(@東洋大学)
- メンバー: 76学部(長)
- 幹事校は年度単位で持ち回り(第42回全国経営学部長会議は、文京学院大学が幹事校。次回は新潟経営大学が幹事校)
- 今回は、第一部で「経営学教育を通して学生にどのような知識や能力を身につけさせるか-チューニングの取組を参考に考える」を取り上げた。
- 来年度のテーマは現在検討中だが、チューニングのテーマは有志メンバー間で検討継続の見込み。

「全国ビジネス系大学教育会議」

- 1983年に『全国経営学部長会議』に参加していた学部長が中心となり、『四系列ー経営学・商学・会計学・経営情報学ー教育会議』として発足(後に名称変更)。
- 経営学・商学・会計学・情報科学を扱う大学教育について定期的に話し合うことを目的に設立された。
- 「全国経営学部長会議」から派生した形。
- ビジネス系の大学教育に関心を寄せる大学関係者が理事を務め、毎年夏(8月下旬)に研究大会を開催。

2. 経営学分野におけるチューニング的な活動の必要性

日本学術会議が分野別参照基準の枠組みを明らかにし(2010.7)、経営学分野のものは早い段階でまとめ公表された(2012.8)ので、これを学んだ大学関係者は少なくない。しかし、その後、明確に意識されないままに時間を経過。ただ、『分野別の参照基準 経営学』は残っていた。

3P制定の義務化(2017.3)で、身近な差し迫った問題に。

経営学部の多くでは、今後学位プログラムを検討する中で、経営学分野の分野別参照基準とチューニングを組み合わせることが有効。

「経営学分野」の分野別参照基準(2012.8)は、経営学、商学(マーケティング)、会計学、経営情報学、経営工学の5分野を対象。

経営学の学びを通じて獲得すべき基本的能力を、経営学に固有な能力とジェネリックスキルの2つに分けて具体的に説明。経営学に固有な能力として、一般的能力に加えて専門的能力が挙げられている。

この5分野を総合的に検討できる場として、学会単位ではなく、「全国経営学部長会議」での取り上げがふさわしい。

学部内で学位プログラムを検討する際に、共通の議論の場として有効であるだけでなく、欧米の取り組みを参考にすることで、よりプラクティカルな解決策が見出されるという期待も生まれている。

ただし、第3期認証評価対策の側面も否定できない。

3. チューニングに関連するこれまでの活動と成果・課題

「全国経営学部長会議」での検討2017年5月 準備会合を開催。

- 2017年9月 「第42回全国経営学部長会議@日本橋」開催。第一部:「経営学教育を通して学生にどのような知識や能力を身につけさせるか -チューニングの取組を参考に考える」
 - 広田照幸 日本大学文理学部教授:「日本学術会議の分野別参照基準の活用について」
 - 深堀聰子 国立教育政策研究所高等研究部長:「経営学教育の学修成果-参照基準比較対照表から気付くこと-」

各経営学部は、経営学分野の分野別参照基準の内容をあらためて確認し、これをもとに経営学部のファカルティ内で議論することができる。

「お互いの担当科目についてダイレクトに意見を交わすのは、お互いの科目の要不要／巧拙に関わるミクロな政治力学が働いてしまう。しかし、参照基準をめぐる意見交換は、お互いを傷つけない形でカリキュラムの考え方についての共通理解を生み出すことになる。」(広田照幸 日本大学文理学部教授)

その際に、参照基準を比較対照し、自大学(経営学部)の実情にあった内容に修正することが考えられる。

問題は、常設組織で検討している訳ではないので、問題意識を強くもつ経営学部での取り組みで終わってしまうリスクがあること。実践例を示すことが必要。

4. チューニングに関連する今後の取組(1)

- UK Subject Benchmark Statements — Bachelor's and Master's
- AACSB-Eligibility Procedures and Accreditation Standards for Business Accreditation,
- Social Science Research Council-Measuring College Learning(MCL) in Business
- Turning Reference Points for the Design and Delivery of Degree Programmes in Business

学士課程・修士課程を理念的に区別することで水準規定の柔軟な運用が図られている模様。

学位プログラム終了後のキャリア・パスおよびそこで求められる知識・能力への言及も。市民性・人格の発達・生涯学習への言及も。

また、すすんで、「獲得すべき基本的な知識と理解」については、分野別参照基準の5領域は概ね対応しているように見える。

今後、経営学分野でチューニングの作業を行う場合には、重要なおっかかりになりそう。

Source: 深堀聰子先生よりのアドバイスに多くを依っている。

4. チューニングに関連する今後の取組(2)

- 次回の全国経営学部長会議開催(2018年8月最終週-9月第一週開催見込み)に向けて、事前に準備会合を開き、その後の検討状況の確認、意見交換を行うことが考えられる。
- 継続的なテーマとして、次回の全国経営学部長会議でその後の経過報告を行うこと、あるいは、よりプラクティカルなレベルで検討することも考えられる。実際にチューニングを実施する経営学部が現れれば、参考としてもらえる可能性も。
- 「全国ビジネス系大学教育会議」との連携も。
- 大学あるいは学部のFaculty Developmentを推進する観点からは、他の大学教育系学会との連携も考えられる。
- 中国での取り組みからも、多くを学びたい。

ご静聴ありがとうございました

内容の多くは、発表者の個人的見解によるものです。ご照会は、kinukawa@bgu.ac.jp まで